

特別寄稿 城山太郎

今年7月に予定されている参議院議員選挙について、自民党県連の鈴木俊広幹事長は、1月14日に記者会見し、公募のなかから、松山市出身で東京在住の中小企業コンサルタントの上野由佳氏(29)の擁立を決めたと発表。現職の永江孝子氏に挑む構図をよと整えた。自民党県連は6年前、知名度に頼ったタレント候補を擁立したが、無所属で野党統一候補の永江氏に9万票近くの差で敗れた。党員からは「人気だけにすぎず、経験も知識も足りない人物を担ぐのは邪道」という声も上がり、専門性や経歴を重視して自民県議からの擁立を模索。特に若手県議に絞り、聞き取りなどを重ねたが、手は拳がらなかつた。かつては、県議に参院選候補者の権利があるとする「県議枠」が存在したが、これを放棄した格好だ。「永江がそんなに怖いのか」志がないともささやかれ「義を見て為さざるは勇無きなり」との指摘は的外れではない。

今夏の参議院選 野志市長の擁立を断念 ~政界流動化 彰久氏へ急接近か~

長は当初、考える時間が欲しいとしたが、前向きな雰囲気だと感じたため、自民党関係者は「すごいサプライズがあるか」と期待して見せた。長谷川会長は複数回に渡り市役所に足を運び依頼を重ねたが、昨年末まで野志市長は昨年7月に起きた松山城のけ崩れで3人が犠牲となった災害対応などを理由と断つたというのだが、昨秋の衆院選で自民党が大敗したことで慎重になつたのではないかと周囲は推察する。かつて中村知

事は野志市長について「首長より議員に向いている」と発言。溝の深い塩崎泰久元衆議院議員の対抗馬に押すのではないかとという観測が飛び交った時期もある。野志市長が参議院選の不出馬を決めたことで2年後に改選される市長選挙にも注目される。選挙には強いと言われ、昨年12月14日に松山市内の興聖寺で開かれた松山義士祭では、訪れた野志市長に女性から「かつちやん、大変だけど、頑張つて」「負けないで」などの声援が飛び、野志市長の健在ぶりを見せつけた。しかしながら次期選挙は5期目という長期政権に加え、中村知事との不仲説が横たわる。2期目までは知事と二人三脚によるスケールメリットを活かした政策を進め順風満帆に見えたが、3期目以降は2人に異変が起きている。中村知事は野志市政に「政策にスピード感がない」「このままでは松山は溶ける」と遅々と進まないJR松山駅裏側の整備計画や銀天街のL字型構想などに再三に渡り野志市長に苦言を呈している。そして、松山城のけ崩れへの対応だ。発生直後、報道陣の要望にも関わらずコメントも出さず、緑町の被災住民らが何度も求めている住民説明会の開催についても崩落が原因不明として頑なに拒絶。「住民に寄り添うという気持ちがない」「説明責任もない」となど厳しい批判が渦巻いているなかで、5期目への挑戦にはハードルが高くなつたという声は浸透し始めている。

知事が彰久氏に 長文の祝電

知事と市長の関係など流動化する地元政界にわかに評価を高めているのが、塩崎氏の長男で1区選出の衆議院議員の彰久氏だ。東京大学法学部卒で米スタンフォード大学留学経験のある弁護士。永田町では官僚が7分刻みで10人以上報告や相談に来るといふ政策通として定評を築きつつある。ただ、県から知事の政府陳情の同行を依頼されると「マスコミは来るのか」と毎回のよう尋ねられ、露出度を重視する姿勢に職員は閉口することもあるという。しかし、その台頭ぶりに塩崎ファミリーに対抗していたかつての中村・野志連合も彰久氏を軽視できないという。昨秋の衆議院選挙では野志市長が突然、彰久氏の選挙事務所を陣中見舞いに訪れてスタッフはたじろいだという。中村知事も投票数日後に厚労大臣政務官としての実績を称えるとともに就任した副幹事長としての活躍に期待するという長文の電報を東京に送り、塩崎ファミリーを驚かせた。代が変わったとはいえ、彰久氏に接近して修復を図るようにも見える中村知事と野志市長、地元政界の構図が変化しつつあるなかで、その風は読みづらい時代に入つた。

城山太郎 1955年愛媛県生まれ。地方新聞社記者、全国新聞社記者を経る。愛媛の政治経済誌「海南タイムズ」で18年間に渡り政治コラムを執筆する。

赤ちゃんの写真投稿大募集 赤ちゃん 赤ちゃん 赤ちゃん 赤ちゃん 赤ちゃん 赤ちゃん 赤ちゃん 赤ちゃん 赤ちゃん 赤ちゃん

住まいのプロフェッショナルが一同に集結! 新築、リフォーム、土地のことなど相談しよう! 住まいマルシェ 2025 2月1日(土) 10:00~17:00 イオンモール新居浜2Fイオンホール